

地域材を用いた「みやこ型住宅」の意識調査について

1 はじめに

宮古農林振興センター林務室では、地域林業の振興を図るため、みやこ型住宅ネットワーク*が建築する「みやこ型住宅」の完成見学会、住宅相談会等の活動を支援しています。

今回、みやこ型住宅に対するイメージの評価および分析を目的として、完成見学会の来場者にアンケート調査を行ったので、その結果を報告します。



2 調査内容

平成 29年 2月に実施した見学会の来場者 37名に地域材を用いた住宅のイメージ、購入する際に欲しい情報、価格の許容額について調査しました。

3 結果（右図参照）

地域材を用いた住宅に対するイメージは「色、質感、肌触りの良さ」が約 89%と最も多く、次いで「自然な素材で健康的」となり、木を直接見たり触れたりできるイメージを持つ人が多く見られました(問1)。

購入する際に欲しい情報は「木材の強度・品質」、「樹種」、「産地」の順で、安全安心な木材を使用した住宅の購入を求めていると考えられました(問2)。

住宅の価格帯は、約 77%が地域材を用いた住宅の価格上乘せに理解を示し、上述のイメージと情報に対して価値を認める傾向が示されました(問3)。

以上から、みやこ型住宅の普及には、木の質感を生かしたデザインの提案と、品質や産地が明確な木材を提供するPR活動が必要と考えられました。

4 結果の活用と今後の予定

調査の結果を踏まえ、みやこ型住宅ネットワークでは、地域住民を対象に木の伐採から加工、建築を見学する「木の住まい産地見学ツアー」を企画しています。今後も住民に木と触れ合う機会を提供する「みやこ型住宅」のPR活動を展開していきます。

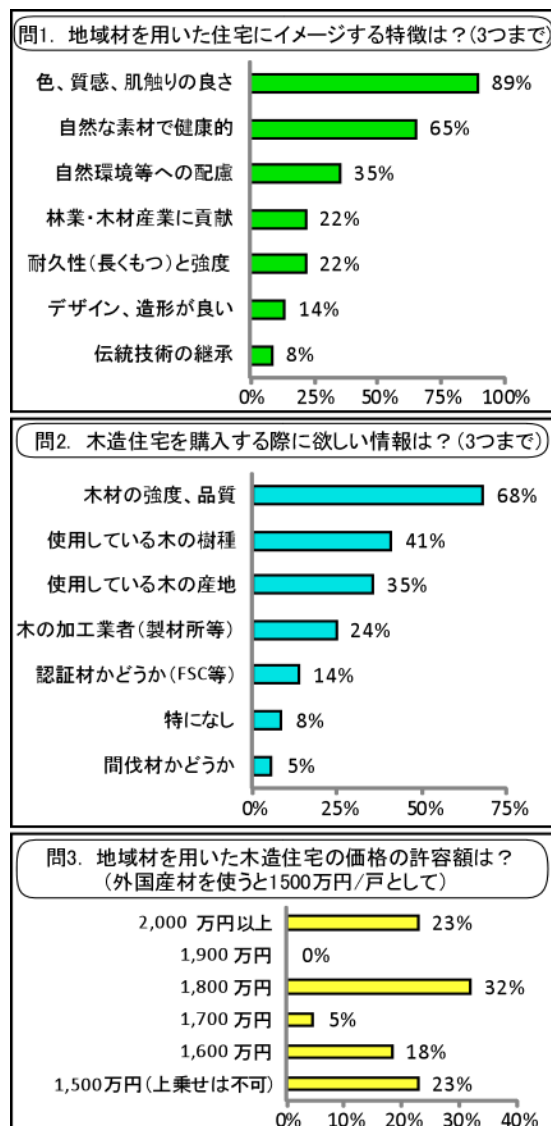


図 アンケート結果

*地域材を住宅建築に使う地産地消の推進を目的に、平成 19年に宮古・下閉伊地域の林業・木材・建築関係者で設立したグループ